

熊本地震を経験した南阿蘇村の子どもを励まそうと「共に生きる」と力強く
揮毫する書家の金澤翔子さん＝南阿蘇中



「ダウン症の書家」金澤翔子さん

南阿蘇村で教室 親子ら80人

書家の金澤翔子さん(31)が22日、南阿蘇村の南阿蘇中で書道教室を開いた。ダウン症がある金澤さんは、自由で感性豊かな表現が注目を集め、NHK大河ドラマ「平清盛」の題字などを手掛けている。熊本地震を経験した子どもらに、力強い揮毫を披露して勇気を届けた。

大筆力強く 届け勇氣

「ダウン症の天才書家」と称される金澤さんは、書の指導者で母の泰子さん(73)と共に各地で個展を開き、知的障害者の社会参画を呼び掛ける活動にも力を入れている。

同村の教室は奉仕団体の熊本キウニスクラブが開き、村内の親子ら約80人が参加。翔さんは、縦約1.5メートル、横約3.6メートルの紙に大筆で「共に生きる」と書き、「地震があった熊本のことをずっと心配して、応援しています」と語り掛けた。

教室では翔さんと泰子さんが子どもらの書を指導。泰子さんは「翔子は書道だけでなく、家族が無理だと思っていた1人暮らしもちゃんとできている。家族や社会が障害のある子どもの可能性を信じてあげることが大事」と話した。

(堀江利雅)